

はじめに

この施肥改善指導マニュアルは、平成24年度に改定した主要農作物施肥基準を活用するためのものです。

今回の施肥基準の改定は、良質堆肥の有効成分等を考慮し、土壌診断に基づき適正な施肥を行う観点から行ったところです。

「1 県内土壌の現状と土づくり」では、過去10年間の県内各地における土壌養分の推移が示されています。土壌分析や診断は継続して実施すると問題点が見えてきます。これは、農家のほ場でも同様であり、毎回同一地点の土壌を分析することにより、施肥改善の効果や問題点が明らかになります。

「2 土壌診断に基づく施肥設計」では、土壌診断の結果から、施肥基準及び耕地土壌のタイプ別を参考に施肥設計を行う考え方を解説しています。コンピュータによる施肥設計が主流となっていますが、そのもととなる考え方が理解されていることが大切です。

「3 施肥技術」では、施肥方法を解説しています。更に栄養診断方法にも触れています。施肥改善は高収量・高品質を目指すためのものです。分析屋になってはいけません。常にフィールドに立ち、土壌に触れ作物を良く観察することが肝心です。

「4 優良堆肥の使用」では、家畜ふん尿堆肥の多量施用の問題点を踏まえ、堆肥中の肥料成分を考慮し、肥料の施用量を決定する方法を解説しています。今後、地下水の汚濁など環境汚染の観点から、家畜ふん尿の施与量について十分考慮していく必要があります。

主要農作物施肥基準と施肥改善指導マニュアルの活用により、効率的な施肥が行われ、各作物の収量・品質が向上し、埼玉農業の収益力に繋がることを期待します。

平成25年3月

埼玉県農林部農業支援課

課長 福井純夫